

# 令和5年乳幼児身体発育調査の結果について

# 令和5年乳幼児身体発育調査の概要について

## 1. 調査の目的（趣旨）

- 全国的に乳幼児の身体発育の状態やその関連項目を調査し、我が国の乳幼児の身体発育値を定めて、乳幼児保健指導の改善に資することを目的とする。 ※10年周期で実施（今回は平成22年（2010年）に実施）

## 2. 調査の対象及び客体

一般調査：生後14日以上乳児～小学校就学前の幼児

病院調査：1か月健診を受診した乳児

	調査客体数	回収客体数	集計客体数
一般調査票	11,190人	6,892人	6,892人
病院調査票	150病院	4,306人 (148病院)	4,302人

## 3. 調査の事項

	事項
一般調査票	性別・生年月日、体重・身長等、運動・言語機能、現症又は既往症、栄養等、妊娠・出産時の状況、母の状況
病院調査票	性別・生年月日・妊娠期間・胎児数・娩出方法等、母の状況、新生児の発育状態・栄養法、1か月健診時の状態

## 4. 調査の時期

一般調査：令和5年9月1日から30日までの期間中で、市区町村長又は保健所の所長が日を定めた日

病院調査：令和5年9月1日から30日までの期間中で、病院で1か月健診が行われた日

# 令和5年乳幼児身体発育調査の結果の概要①

## 調査結果のポイント

- 乳幼児の体重及び身長の平均値について、前回調査（平成22年）と比べ、大きな変化はなかった【図1、図2】。

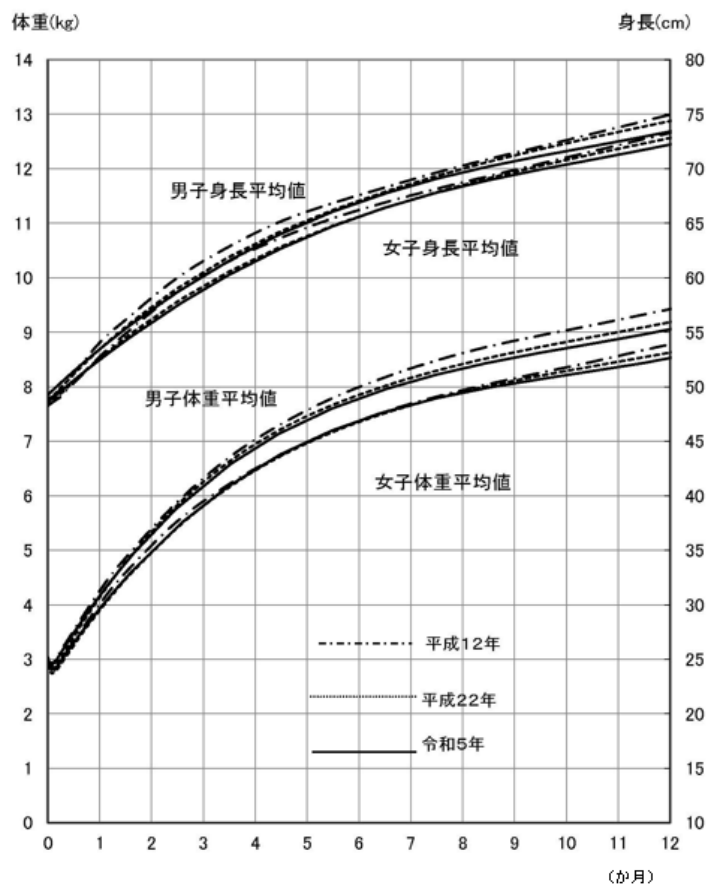


図1 乳児（男子、女子）体重及び身長の比較

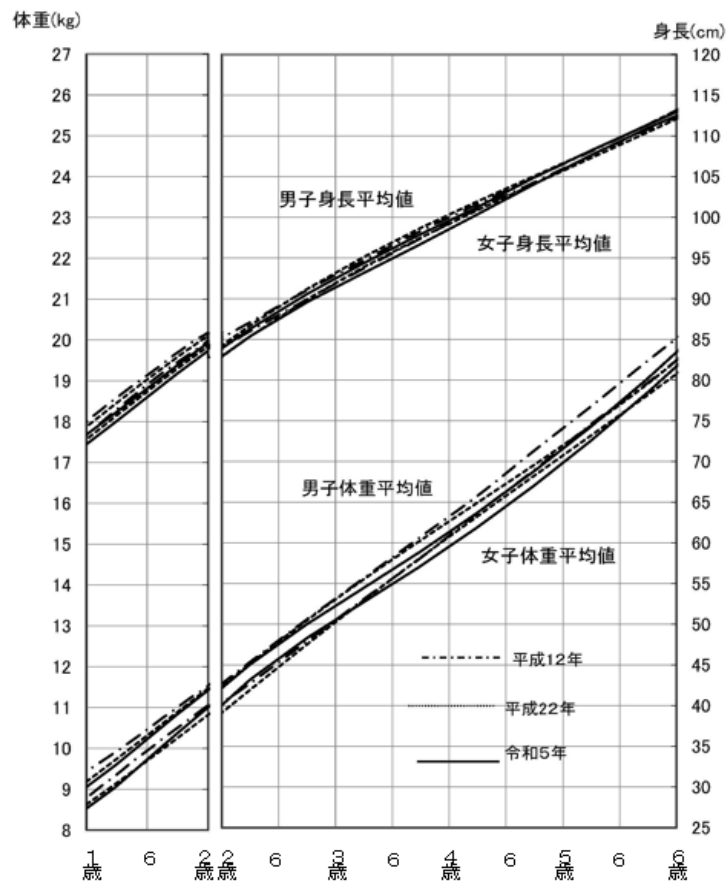


図2 幼児（男子、女子）体重及び身長の比較

## 令和5年乳幼児身体発育調査の結果の概要②

### 調査結果のポイント

- 運動機能について、それができると回答した乳幼児の割合が90%以上となった月齢について、平成22年と比べ、「ひとり歩き」において高くなっている【図3】。
- 言語機能について、一語以上の言葉を話す乳幼児の割合を示しているが、平成22年と比べ、特に生後1年前後の乳幼児で一語以上の言葉を話す割合は低くなっていた【図4】。

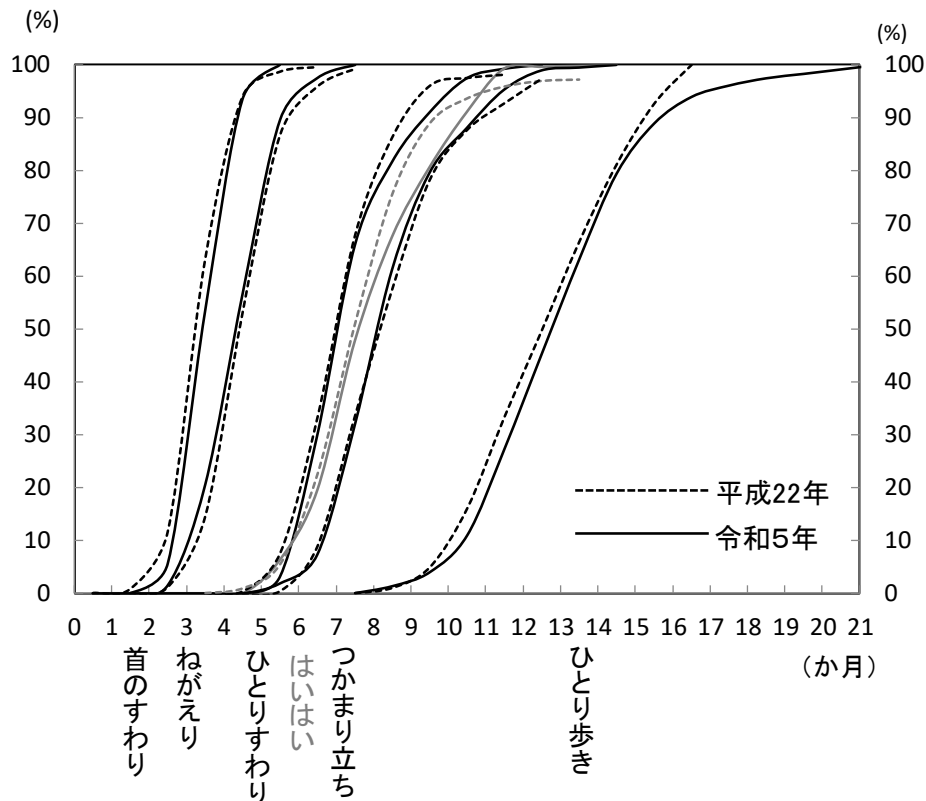


図3 一般調査による乳幼児の運動機能通過率

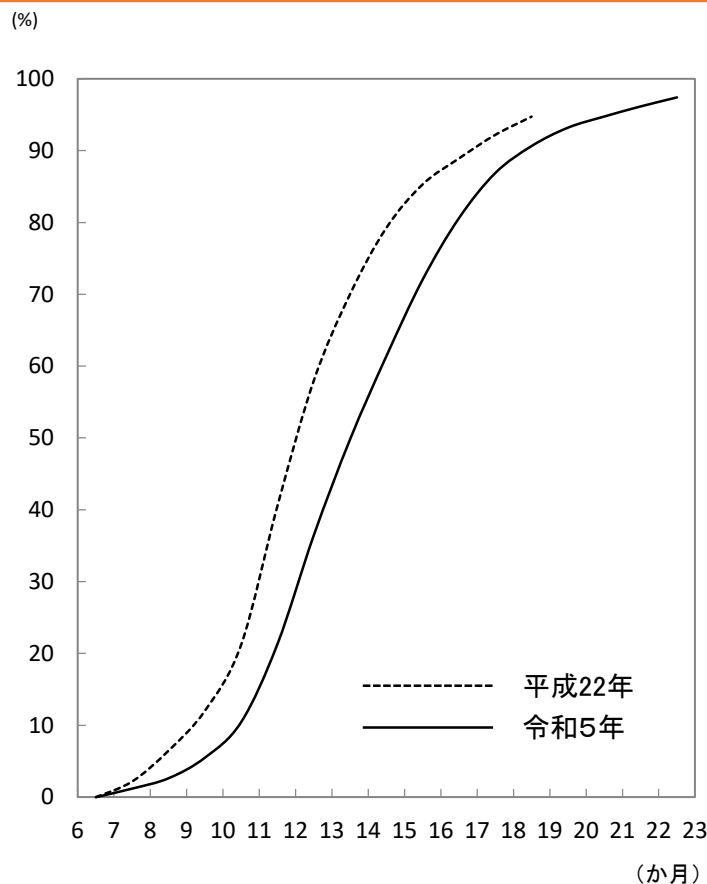


図4 一般調査による乳幼児の言語機能通過率

# 令和5年乳幼児身体発育調査の結果の概要③

## 調査結果のポイント

- 出生年次別の栄養法は、令和5年の生後3～4月未満の乳児では、平成22年と比べると母乳栄養の割合が低く、混合栄養、人工栄養の割合が高かった【図5】。
- 離乳の状況は、生後5～6か月未満では、49.2%の乳児が、生後6～7か月未満では91.9%の乳児が離乳中であった。また、生後1年3～4か月未満では、82.4%の幼児が離乳を完了していた【図6】。

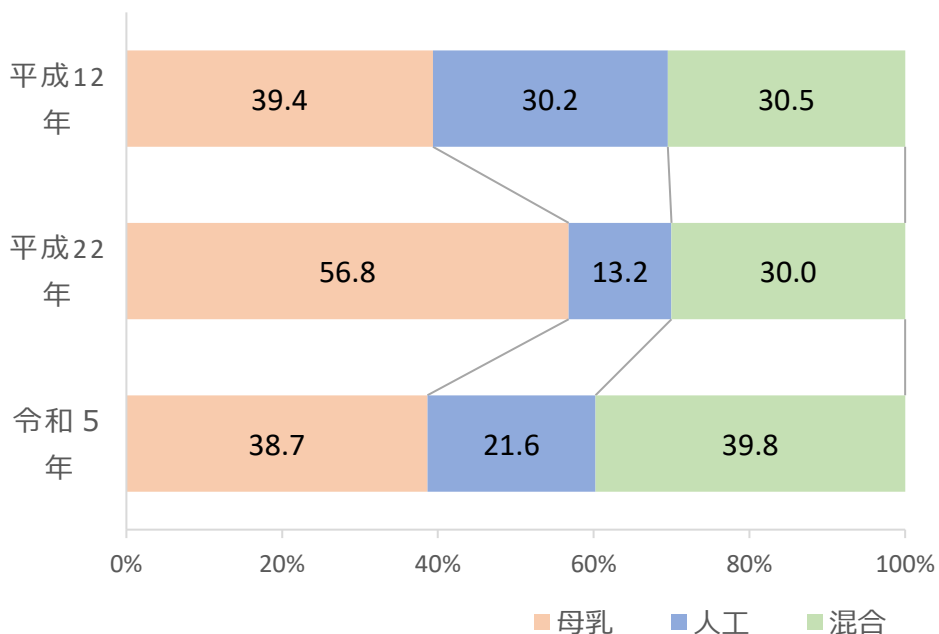


図5 一般調査による出生年次別3～4月未満の乳児の乳汁栄養法の割合

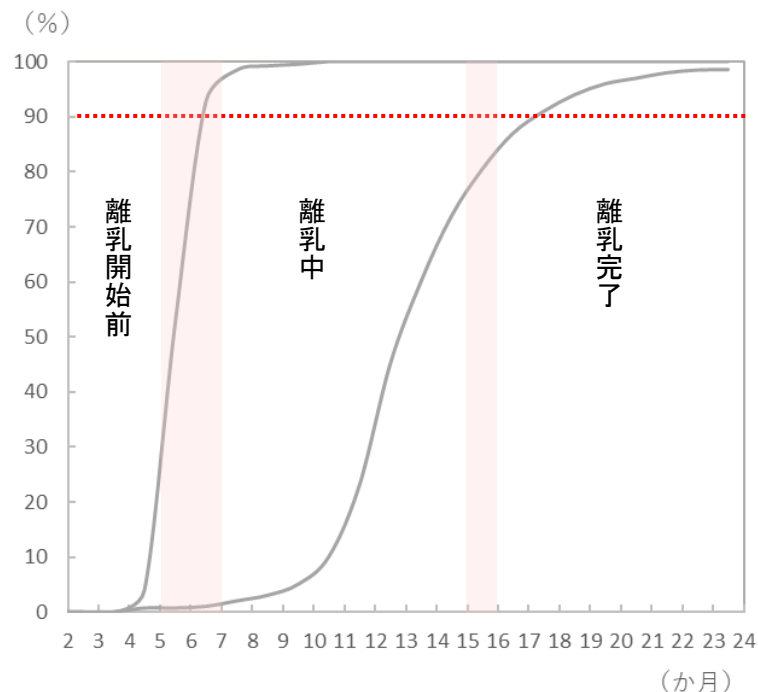


図6 一般調査による離乳状況の割合、年・月齢別

# 令和5年乳幼児身体発育調査の結果の概要④

## 調査結果のポイント

○ふだんのBMIに応じた妊娠中の体重増加量については、「妊娠中の体重増加指導の目安」に示す増加量の範囲よりも、過少な者が多かった【表1】。

ふだんのBMI	出産直前の体重とふだんの体重の差	人	ふだんのBMI区分ごとの割合(%)
～18.5未満 (低体重(やせ))	12kg未満	326	61.9
	12kgから15kg	151	28.8
	15kg超	43	8.2
	不詳	6	1.1
18.5～25.0未満 (ふつう)	10kg未満	1226	44.8
	10kgから13kg	1057	38.6
	13kg超	425	15.5
	不詳	28	1.0
25.0～30.0未満 (肥満(1度))	7kg未満	175	43.3
	7kgから10kg	116	28.7
	10kg超	111	27.5
	不詳	2	0.5
30.0～ (肥満(2度以上))	5kgまで	94	53.1
	5kg超	82	46.3
	不詳	1	0.6
不詳		105	2.7

(参考) 妊娠中の体重増加指導の目安\*

妊娠前の体格**	BMI	体重増加量指導の目安
低体重	18.5未満	12～15kg
普通体重	18.5以上 25.0未満	10～13kg
肥満(1度)	25.0以上 30未満	7～10kg
肥満(2度以上)	30以上	個別対応 (上限5kg までが目安)

\* 「増加量を厳格に指導する根拠は必ずしも十分ではないと認識し、個人差を考慮したゆるやかな指導を心がける。」  
産婦人科診療ガイドライン編 2023 CQ 010より

\*\* 体格分類は日本肥満学会の肥満度分類に準じた。

表1 病院調査による母のふだんのBMI別出産直前の体重とふだんの体重の差別の人数、割合(単胎、正産)

# 令和5年乳幼児身体発育調査の結果の概要⑤

## 調査結果のポイント

○妊娠中の体重増加量について、母のふだんのBMIごとに見てみると、「妊娠中の体重増加指導の目安」に示す範囲内である場合、目安よりも少ない場合に比べて、出生時体重は大きくなっていった【表2】。

		一般						病院					
		男子			女子			男子			女子		
母のふだんのBMI	出産直前の体重とふだんの体重の差	実数人	平均値kg	標準偏差kg	実数人	平均値kg	標準偏差kg	実数人	平均値kg	標準偏差kg	実数人	平均値kg	標準偏差kg
～18.5未満 (低体重(やせ))	12kg未満	297	2.95	0.32	285	2.80	0.40	159	2.93	0.32	166	2.83	0.30
	12kgから15kg	149	3.10	0.33	143	3.05	0.36	88	3.00	0.31	63	2.98	0.25
	15kg超	37	3.52	1.50	38	3.09	0.26	21	3.13	0.32	22	3.20	0.43
18.5～25.0未満 (ふつう)	10kg未満	952	3.05	0.34	953	2.89	0.40	577	3.04	0.35	648	2.92	0.35
	10kgから13kg	954	3.14	0.35	977	3.04	0.35	537	3.16	0.36	520	3.03	0.33
	13kg超	437	3.36	0.91	403	3.22	0.84	228	3.21	0.35	208	3.11	0.34
25.0～30.0未満 (肥満(1度))	7kg未満	100	3.13	0.36	105	2.98	0.47	100	3.12	0.33	91	3.01	0.39
	7kgから10kg	81	3.20	0.39	93	3.07	0.46	61	3.18	0.44	55	3.01	0.39
	10kg超	79	3.37	0.83	68	3.11	0.42	62	3.32	0.43	49	3.21	0.35
30.0～ (肥満(2度以上))	5kgまで	40	3.29	0.47	39	2.92	0.45	56	3.19	0.38	39	3.12	0.40
	5kg超	28	3.18	0.41	35	3.15	0.47	40	3.23	0.80	89	3.16	0.84

※出生時の平均体重は、男子3.06kg、女子2.95kg

表2 一般調査及び病院調査による対象児の母のふだんのBMI別の出産直前の体重とふだんの体重の差と出生時体重(単胎・正期産)

# 令和5年乳幼児身体発育調査の結果の概要⑥

## 調査結果のポイント

- 妊娠中の母の喫煙率は、2.0%であり、前回調査と比べ減少していた【図7】。
- 母の妊娠中における父及び同居者の喫煙率は、17.6%であり、前回調査と比べて、減少していた【図8】。
- 妊娠中の飲酒の状況について、飲酒率は1.1%であり、平成12年、平成22年と比べて、減少していた【図9】。

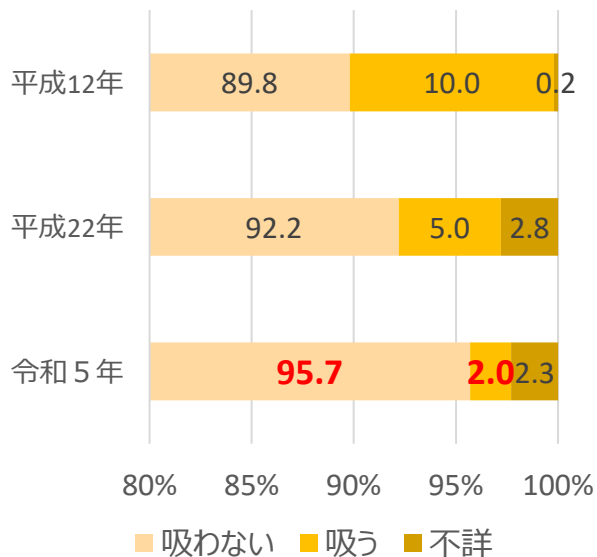


図7 一般調査による母の妊娠中における喫煙状況

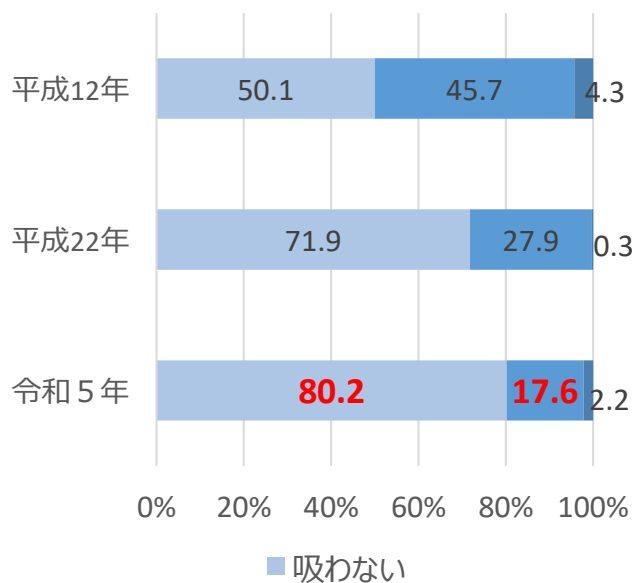


図8 一般調査による母の妊娠中における父及び同居者の喫煙状況

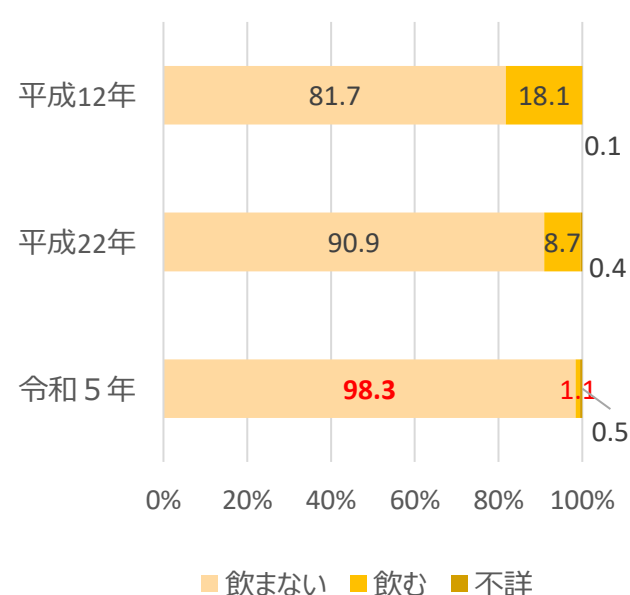


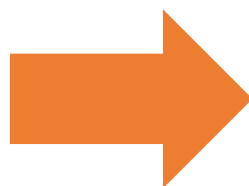
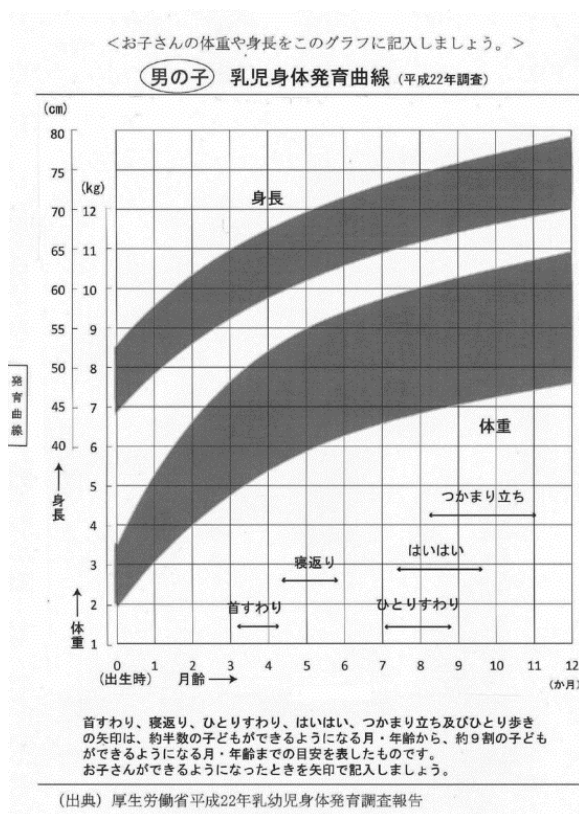
図9 一般調査による妊娠中の飲酒の状況

# 令和5年調査に基づく乳幼児身体発育曲線について

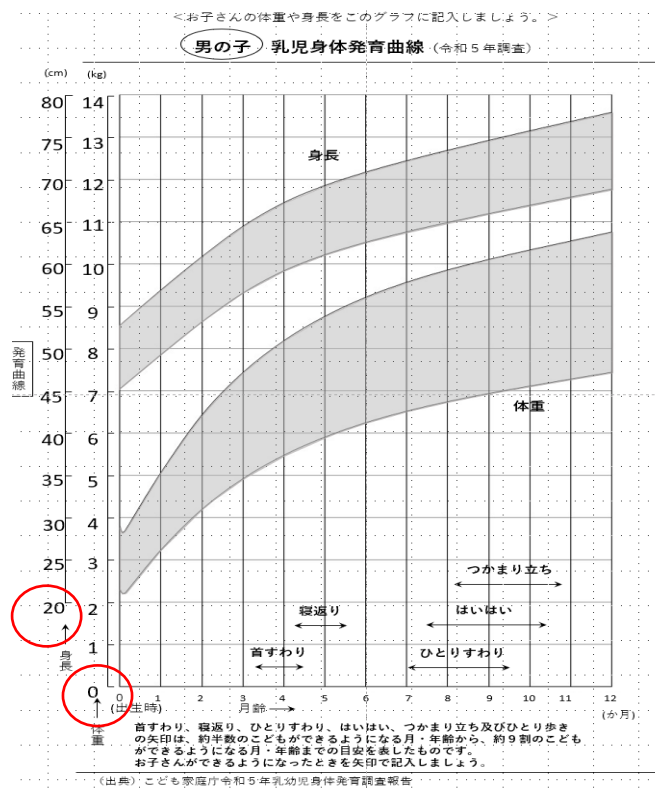
○出生体重1000g未満の低出生体重児のこどもについても、成長に合わせた記載の範囲を拡大するため、  
体重は1kg～ ⇒ 0kg～、身長は40cm～ ⇒ 20cm～の表記に変更した。

＜男子 乳児身体発育曲線の例＞

変更前（平成24年4月～）



変更後（令和7年4月～※）



※令和6年12月に母子健康手帳の様式に反映するための府令改正を実施。